

## No. 82 アメリカのフェデラルブドーザーとジェイン・ジェイコブズ

現代まちづくり塾  
2010-11-20: 濱口オサミ

フェデラルブドーザー：スラム撤去式ブルドーザー型の再開発、既存の建物を一掃して高層アパートを建て、オープンスペースを大量につくる団地型再開発方式

### ■ ジェイン・ジェイコブズ (1916-2006 Jane Jacobs )

- \* 1916年米国ペンシルバニア州の炭鉱町スクラントンに生まれる
- \* 高校卒業後すぐ就業、大恐慌の不況下、ニューヨークに出てさまざまな職業に従事
- \* 業界紙の記者をしつつメジャー誌に自由契約の記者として寄稿
- \* 建築家ロバート・ジェイコブズと知り合い結婚
- \* 女性で高卒でママさんジャーナリストということで当初専門家や学会から反発
- \* ニューヨークを分断する高速道路建設計画に反対する市民運動を主導
- \* The Death and Life of Great American Cities の著作により世界中から絶大な評価を勝ち取る、

#### 今や都市問題に関する必読の古典

### 1) アメリカの大都市の生と死(1961 The Death and Life of Great American Cities)

黒川紀章部分訳 鹿島出版会/SD 選書 山形浩生完全訳/鹿島出版会

- \* ルイス・マンフォードを中心とする「田園都市」を支持する『分散派』への批判  
同時にコルビュジエの輝ける都市＝垂直田園都市への批判でもある
  - \* ハワードの認識：都市そのものが不快、都市の形態こそ悪魔であり、自然に対する逆行行為  
「それに対する彼の処方箋は都市を減らすことでした」
  - \* 『分散派』の施策は都市の規模を小さく町の規模に分散することであり、結果として都市を破壊する
    - ・ 分散派：ルイス・マンフォード、クラレンス・スタイン、ヘンリー・ライト、キャサリン・バウアー
    - ・ 田園都市の最大人口＝3万人 一旦建設されたら、あらゆる変化から保護されねばならない（父権主義的）
    - ・ メトロポリスの複雑で多面的な文化生活をあっさり無視
    - ・ マンフォードの「都市の文化」は都市の悪いところの陰気で偏向したカタログであると一蹴
  - \* 都市の本質と活力：都市の根本的な要素である多様性の中にこそある
  - ★ 本書の構成：1) 都市を先入観なしに観察⇒都市の人々の社会行動について
    - ・ 街路の有用性（安全の確保・多用な人々のふれあい・子供の教育効果）
    - ・ 安易なオープンスペースは悪徳と犯罪の巣窟となる
    - ・ 公園が活力を持つには、隣接する利用上の機能の物理的多様性と利用者のスケジュール上の多様性が必要
    - ・ 都市公園の利用者は建物のためのしつらえを求めるのではなく、自分自身のためのしつらえを求める。公園が前景であり、建物が背景である。
    - ・ <近隣住区>約7千人の1小学校を持つユニット
- 都市における有効な近隣の物理計画：
- ① 活気ある面白い街区を育むこと
  - ② そうした街路の網の目を地区全体にネットワークを展開すること

- ③ 公園や広場や公共建築を網の目の一部としてつかうこと
- ④ 地区として機能するだけの規模を持つ地域の機能的アイデンティティを強調すること
- II) 都市の多様性とその性質について⇒有用な多様性を生み出すための4つの条件
- III) 現実の生活において都市がどう使われ、都市とそこの人々がどう振舞うかをもとに都市の荒廃と再生について検討
  - ・多様性の自滅 → 都市の衰退
- IV) 住宅・交通・デザイン・計画・行政方式の変更を提案し、都市が抱える問題の種類を論ずる（組織化された複雑性の問題と捉える）

### <都市の本質と活力：都市の根本的な要素の多様性を生じさせる四つの条件>

- i) 地区は2つ以上、望ましくは3つ以上の機能を果たすことが望ましい
  - <ゾーニング理論の否定>
    - ・つまり異なるいくつかの目的で、異なる時間帯に、さまざまな人が利用すること例えば昼は職場やショッピング、夜は観劇や飲食、夜中はそこに居住）<混合一次用途の必要性>
    - cf.都市はツリーではない（1965年）by クリストファー・アレキザンダー
- ii) 短いブロックで区切られ、横道が沢山あって、目的地にいろいろな生き方ができ、通りに多様性があること（小さな街区の必要性）
  - <スーパーブロック計画の否定>
    - ・都市の安全は人口密度を拡散することでは解決不能（ロサンゼルス市強姦犯罪がニューヨークの4倍）
    - ・街路の目が都市の安全を守る 輝ける都市の派生物である高層住宅プロジェクトの廊下やELVは目の届かない街路であり、犯罪の巣となる。
    - ・スーパーブロックの境界は恐るべき真空地帯を生む。
- iii) 地区には異なる古さ、タイプ、サイズ、管理状況のビルが混在していなければならない（古い建物の必要性）<多様性の評価>
  - ・花開く多様性というのは、高収益事業、中収益事業、低収益事業に無収益事業が入り交じっているということである。
- iv) 高い人口密度（昼も夜も）で、子供、高齢者、企業家、学生、芸術家など多様な人々がコンパクトに生活していること（密集の必要性）
  - <集中と多様性こそが都市の本質・都市の美学>
    - ・都市の多様性が花開くためには、高密な集中が必要条件の一つである
    - ・高密度とは面積あたりの住戸数が多いこと、過密とは住戸の個室に対し住んでる人の数が多すぎること、両者は別物であることに留意せよ
    - ・現代都市計画と住宅改革の発達は、人々の都市への集中は望ましくないとの感情に根ざしている。その感情が都市計画を知的に殺す後押しをしてきた。高密な都市人口は資産なのである。
  - ★ 多様性をめぐる妄言：
    - ・「混合利用は醜い。交通渋滞を引き起こす。破壊的な用途を招き入れてしまう。」
    - 都市における異なる用途の複雑なからみ合いは、混沌の現れではない。それどころか、それは複雑で極めて発達した秩序形態を示している。
    - ・用途が均一なところでは、しばしば建物ごとに意図的なちがいや差異が図られる。違って見たいという欲望を表している「奇矯建築」は道路沿いの商業建築で頻繁に見られるものだ。
  - ★ 都市の3つの選択種：
    - ① 都市は均質な地域を目指して均質な外観を得て、結果として陰気で方向感覚を喪失する場所をつくる。
    - ② 均質な地域でも、均質でないかのように見せかけようとして、下品で不正直な結果を得る。
    - ③ 多様性がたくさんある地域を目指して、そこでは本物のちがいが表現されているので、最悪

でもちょっとおもしろいだけ、最良ならば喜ばしい結果を生む。

★ スラム化と脱スラム化

- 脱スラム化に成功しつつあるスラムは田園都市の理想とは正反対の配置や用途、建蔽率、混合利用、活動を示している。そして、誰もそこで大儲けをしていない。
- ハワードは新しい都市の商人や起業家たちを出し抜こうとしていた。彼らが事業を続ける余地をまったく残さず、独占的な会社計画の厳しい指示でしか活動できなくすること、これが田園都市の考案にあたってのハワードの最大関心事であった。産業化と都市化の連携に内在する活発な力を恐れ、拒んでいた。

★ ゆるやかなお金と怒涛のお金

- 3種類のお金：①民間の融資機関からの貸付金 ②政府から供給される資金 ③投資の闇世界、裏社会からの資金
- 既存のものを利用し、それを足がかりにして補強するのに必要なお金は、ゆるやかにやってくるお金。  
でも、現実はこの不可欠なお金が欠けている。
- 怒涛のお金 ⇒ フェデラル・ブルトラー → 融資ブラックリスト = スラム取り壊し地区

★ 視覚的秩序——その限界と可能性

- 都市デザインに挑む建築家たちは、都市に視覚的秩序をこしらえようとするにあたり、生活の秩序を芸術秩序（両者はまったく別物です）に置き換えることしかできない。都市の助けになるデザイン戦略を持っていないために代替策が生み出せない。
- 生活を芸術で置き換えようと試みるかわりに、都市デザイナーたちは芸術と生活の両方を高める戦略に戻るべきである。
- 私たちは都市の秩序について常々単細胞的な嘘をつかれ、結局のところ、複製が秩序を表すと言い聞かされている。
- 都市は混合自体が要石であり、その相互支援が秩序なのです。
- 都市の構造そのものが混合用途で構成され、その構造の秘密に肉薄するためには、多様性を生み出す条件に取り組むことが必要である。

★ 地区と行政と計画：2. 5Km×2. 5Km：人口 min 50,000人 ~ max 200,000人

★ 都市とはどういう種類の問題か

- 都市はずっと昔から組織だった複雑性の問題として認識され、理解され、扱われるべきであった。
- 都市は積み上げやサンプル抽出では把握しきれない、数多くの機能や人々の複雑なからみ合いから生じる、複雑系の創発的な秩序なのである。
- \* 本書の執筆のための資金をロックフェラー財団が提供。  
当時のニューヨーク都市開発の帝王であったロバート・モーゼスを倒したのはネルソン・ロックフェラーであった。

2) 都市の原理(1969 The Economy of Cities) 中江・加賀谷共訳 鹿島出版会/SD選書

- \* 都市の多様性がイノベーションを生み出す。異なる業種に属するさまざまな企業、とりわけ中小企業の存在が、都市の多様性の源泉となる。
- \* 都市はイノベーションが持続的に生み出せなくなった時に衰退する。
- \* 国の経済発展の源泉であるイノベーションを生み出す都市の存在が国の盛衰を決定する。
- \* プロダクト・イノベーションは、古い仕事にわずかな新しい仕事を付け加えることで生み出される。
- \* 輸入品を地場技術で自前生産に切り替える輸入置換が都市発展の原動力になる。
- \* 活発な既存企業からの breakaway がイノベーション、都市の発展に不可欠である。
- \* 都市がイノベーションのインキュベーターとなるためには、企業への資金提供の仕組みが必

要である。

cf. 「スモールイズビューティフル」(1973 Small is Beautiful)  
by Ernest Friedrich Schumacher

### 3) 都市の経済学 (1984 Cities and the Wealth of Nations)

中村・谷口共訳 TBSブリタニカ

- \* アダム・スミスの『諸国民(Nations)の富』以降、ケインズおよび現代の経済学の基本的分析枠組みは「国民」ないし「国家」であり、それを前提にマクロ経済学が組立てられてきたのに対し、「諸都市(Cities)」を軸に分析・展開。
- \* 一国の経済的発展・衰退のダイナミクスは都市のダイナミクスに起因する。
- \* 諸都市が相互に創造的、共生的なネットワークを具え、住民の創意によるイノベーションを活かす国は成長・発展するのに対し、それらを欠く場合には衰退の一途をたどる。つまり、「諸都市」こそが国の経済のあり方を規定するのである。
- \* ケインジアンとマネタリストも経済をみる枠組みが「国民」ないし「国家」であるため、「諸都市」のダイナミクスへのまなざしを欠いていることが問題。

### 4) 市場の倫理・統治の倫理 (1992 System of Survival)

香西 泰訳 / 日経ビジネス人文庫

#### \* 市場の倫理

- ・暴力を締め出せ
- ・自発的に合意せよ
- ・正直たれ
- ・他人や外国人とも気安く協力せよ
- ・競争せよ
- ・契約尊重
- ・創意工夫の発揮
- ・新奇・発明をとりいれよ
- ・効率を高めよ
- ・快適と便利さの向上
- ・目的のため異説を唱えよ
- ・生産的目的に投資せよ
- ・勤勉なれ
- ・節儉たれ
- ・楽観せよ

#### 統治の倫理

- ・取引を避けよ
- ・勇敢であれ
- ・規律厳守
- ・伝統堅持
- ・位階尊重
- ・忠実たれ
- ・復讐せよ
- ・目的のためには欺け
- ・余暇を豊かに使え
- ・見栄を張れ
- ・気前よく施せ
- ・排他的であれ
- ・剛毅たれ
- ・運命感受
- ・名誉を尊べ

- \* 仕事をして生活していく上で支えとなる道徳と価値には二つの根本的に異なる体系がある。それらが相互矛盾しているのはなぜかを知れば多くの混乱に光が投げられる。組織や制度が自らに妥当する道徳体系を別の道徳体系と混同した場合に、どのような機能的・道徳的な泥沼に陥ることになるかを示した。

★ 本書において「仕事の倫理 (Ethics of Working Life) を論じる

### 5) 経済の本質 (2000 The Nature of Economies)

香西泰・植木直子訳 / 日本経済新聞社

- \* Ecology(生態学)の創始者ヘッケルの Ecology の定義は The Economy of Nature
- \* 今度は経済学が自然から学ぶ番だという意味がこの本のタイトルにこめられており、経済の発展、成長、安定は、自然と共通の法則に従うもので、それを自覚することによってのみ、人間は自然とより良く調和しつつ、経済を営んでいける、というのが本書の主たるメッセージである。
- \* 進化論の発展の定義 ; “一般”、“から”、“発生する”、“分化” のたった4つの言葉。
- \* 発展の3法則 :
  - ① 発展には重要な質的变化を伴う。発展とは質的变化で、拡大は量的変化である。
  - ② 発展とは終のない過程であり、分化したものが一般的なものとなり、その一般的なものからさらなる分化が起こる。その過程が複雑性と多様性を生み出す。
  - ③ 発展は共発展 (Co-development) による。
- \* 経済発展は自然発展の別の形 : 経済成長はその他の自然が用いているのと同じ普遍的法則に則っている。
- \* 発展は出来上がった事物の集積 (物の理論) ではなく、事物を生み出す過程 (生物の理論) である。
- \* 標準化もまた発展をダメにする。目標を標準化するのは必ずしもいけなくはない、でも手段を標準化してはだめなのだ。
- \* 拡大は過渡的エネルギーの取り込みと利用に依存す。
- \* 最も拡大された経済は、多様な経済であり、多様な集団が受け入れたエネルギーの多様な利用や再利用によって作りだした豊かな環境内で拡大を遂げる。
- \* 活力自己再補給の本質 ; 地域はある輸入を新しい輸出企業に取り入れて、その輸出代金で輸入を賄う。地域はある輸入を地元生産で置き換え、これに代わって他の輸入品を購入することもできる。輸入置き換えと輸入転換がそれぞれ相互に支援しあう。
- \* ケインズは需要サイドを重視した経済学者だ。需要が供給を導いて経済活動と経済拡大を生み出すと信じていたのだ。
- \* 集団が発展せず、多様化せず、活力自己再補給もしていない経済は、経済的欠陥を背負っている。発展し、多様化し、再活性化する集団なしにはこのような欠陥は救えない。

## 6) 壊れゆくアメリカ (2004 Dark Age Ahead)

中谷和男訳 / 日経 BP 社

- \* 倒壊の危険にさらされている文明の6本の柱 ;
  - ① コミュニティと家族
  - ② 高等教育
  - ③ 科学および科学にもとづくテクノロジーの効果的実践
  - ④ 税と政府の力
  - ⑤ 知的プロフェッショナル (法学・医学・神学) による自己規制
  - ⑥ スポール化
- \* 暗黒時代への突入に歯止めをかけるものとして、「人民の、人民による、人民のための政府は地上から消え去ることはない」というリンカーンの言葉ほど、中核的価値を持つ表現はないと結ぶ
  - ① コミュニティと家族
    - ・ コミュニティには、すべての家族が必要としながら自分では用意できない機能がある
    - ・ 孤立する核家族がワーキングプアーになる
    - ・ モーターレーゼーションの推進は、個人も家族も車なしではもはや生活ができなくなり、その車の購入・維持の大きな負担から経済的困窮に至らしめる
  - ② 高等教育
    - ・ マンモス大学が高等教育を滅亡に導く ; 大学卒業資格の授与が成長産業として台頭、学校

は生徒を人間としてではなく、できるだけ効率よく加工できる原材料として扱う。

③ 科学および科学にもとづくテクノロジーの効果的实践

- ・ 科学が幸福を提供することはなく、またその逆もない。社会的理想郷についても同じことが言え、それは科学によって創造されることはなく、またその逆もない。

④ 税と政府の力

- ・ 新保守主義（ネオコン）が貧困層を生み出す。ネオコンのイデオログは価値有ることが生き残り繁栄するよう、社会的・経済的に選別する。豊かな納税者は雇用の創出に投資しているとの仮定のもとに、税制上の優遇措置や軽減の形で彼らに利益を供与する。

⑤ 知的プロフェッショナル（法学・医学・神学）による自己規制

- ・ 建築家は他の建築家の批判はしない。雑誌の編集者は批判的なコメントを避ける。
- ・ エンロン事件の真相：企業の合併・吸収せ顧客が極端に減り、会計士としても収入源を探さなければならぬ中、会社側は指示に従わなければ顧問会計士を解約するとの脅しをうける。このようにしてプロに成りきれないプロが生まれる。

⑥ スプロール化

- ・ スプロール化から悪循環へ：スラムという老朽・荒廃地区の指定が銀行のレッドライニング（赤線引き）を招き、申請者の信用度や建築の条件とは関係なく、銀行による担保融資が一切拒否され、シェルター不足を引き起こし、家主は老朽化住宅を放置。住宅とコミュニティは物理的にも社会的にも荒廃。
- ・ 郊外のスプロール化はホームレスの増大を招いた。ホームレスにならないためには収入の半分以上を家賃に当てなければならず、着る物も食料も買えなくなった家族が増えた。
- ・ スプロール化に利用される土地はほとんどが農地、その所有者は重労働の割に収益の少ない家族規模農家とデベロッパーの利害が一致し、このようにして都市の拡大を抑制するように設計されていた農地や公園の緑地帯は姿を消した。
- ・ 並行して、大規模機械化農業は人口のわずか3%か4%の農民が残りの96%のための食料を生産することになった。
- ・ 貧困者用の住宅不足、包括的なコミュニティの崩壊、過度の車依存といった悪循環は大恐慌と戦争の15年間に発端があることを記憶に留めておかなければならない。この悪循環を解消するには平和と繁栄が必要である。  
もし再び大恐慌と戦争、スタグフレーションと人員削減の事態が生じれば、この悪循環を解消するチャンスは永遠に失われるだろう。

## 7) ジェン・ジェイコブズの落とし子 ⇒ 創造都市

- \* 創造都市の産みの母＝ジェン・ジェイコブズ、産みの父＝ランドリー

by 佐々木雅幸（大阪市立大教授）

- ・ 『クリエイティブ・シティ』(Creative City, 2000) by Charles Landry
- ・ 『クリエイティブ資本論—新たな経済階級の台頭』(The Rise of the Creative Class, 2002) by Richard Florida

### ★ 創造都市こそが持続可能な21世紀型の都市である

＜21世紀都市論のパラダイム転換：グローバル都市から創造都市へ＞

- \* 市民の創造活動を基礎とする文化と産業（特に創造産業）を発展の軸とする
- \* 水平的な都市ネットワークを広げ、文化的に多様な社会の形成
- \* 社会包摂(Social Inclusion)的なコミュニティの再構築

### ★ 創造都市への四つのアプローチ (by Landry)

- ① 芸術家と彼らの活動を支える文化施設（創造の場）が多数あること

- ② 市場性のある創造産業が発展し、それが既存産業の創造性を高めていること
- ③ 創造階級(Creative Class:コンピュータ・数学・建築・教育等々に携わる専門職)が多数居住し、科学者と芸術家とが協力しつつ、日常生活を豊にしていること
- ④ 行政組織も含め、すべての市民が創造性を発揮することができ、また、エンパワメントされる場であること

★ ユネスコによる創造都市の登録認定

- \* 2001年「文化的多様性に関する世界宣言」を採択；ユネスコは20世紀末から急速化する市場原理主義的なグローバリゼーションにより、途上国の文化財や言語が消失して文化権や人間発達を阻害し、文化的多様性が損なわれ、文化的画一化が進むことに警鐘。
- \* 2004年ユネスコ文化局により文化的多様性を実現すべく創造都市のグローバルアライアンスを呼びかける。
- \* 登録認定の7つのカテゴリー； ①文学 ②音楽 ③デザイン ④メディアアート⑤映画  
⑥食文化 ⑦クラフト & フォークアート
- \* アジアと日本の認定都市；神戸・名古屋・深圳（デザイン2008）、金沢（クラフト2009）
- \* 認定を目指す他の日本の都市；横浜市、近江八幡市、沖縄市、札幌市、豊島区、篠山市、萩市（以上文化庁による文化芸術創造都市部門受賞都市2007）

Jane Jacobs 著作リスト

- 1) 「下町こそ住民のものだ」(1958 Downtown is for People, “Fortune”)
- 2) {アメリカの大都市の生と死} (1961 The Death and Life of Great American Cities)  
黒川紀章部分訳 鹿島出版会/SD選書 山形浩生完全訳/鹿島出版会
- 3) 「都市の原理」(1969 The Economy of Cities) 中江・加賀谷共訳 鹿島出版会/SD選書
- 4) 「分散主義への疑問：ケベックと統治権の戦い」(1980 The Question of Separatism:  
Quebec and the Struggle over Sovereignty)
- 5) 「都市の経済学」(1984 Cities and the Wealth of Nations) 中村・谷口共訳 TBSブリタニカ
- 6) 「市場の倫理・統治の倫理」(1992 System of Survival) 香西 泰訳 / 日経ビジネス人文庫
- 7) 「経済の本質」(2000 The Nature of Economies) 香西泰・植木直子訳 / 日本経済新聞社
- 8) 「壊れゆくアメリカ」(2004 Dark Age Ahead) 中谷和男訳 / 日経 BP社
- \* ジェイコブズ対モーゼス ニューヨーク都市計画をめぐる戦い 渡辺泰彦訳/鹿島出版会
- \* 都市と本質のゆくえ J.ジェイコブズと考える 宮崎洋司・玉川英則/鹿島出版会